**付録３－１**

**ＰＡＴＨ（Planning Alternative Tomorrow with Hope「希望に満ちたもう一つの未来**

**の計画」）**とは、カナダで開発された手法です。

日本では、**「障害のある人と関係者が一堂に会し、その人の夢や希望に基づきゴールを**

**設定し、ゴールを達成するための作戦会議」**として紹介されています。

ＰＡＴＨの手法を、学校での**「個別の教育支援計画」**や**「個別の指導計画」**の作成や

見直しの際の話し合い（ケース会議）や福祉サービスでの**「サービス等利用計画（障害児**

**支援利用計画）」**や**「個別支援計画（児童発達支援計画や放課後等デイサービス計画）」**の

作成や見直しの際の話し合い（ケース会議）などに活用することにより、**子どもや家族の**

**願いの実現**に向けて、将来を見据えた生涯一貫した取り組みが行えることが望まれます。

**７**

**はじめの**

**一歩**

**３**

**今の姿**

**（実態）**

**４**

**必要な力**

**５**

**必要な人**

**（関係者）**

**６**

**近い**

**将来**

**１**

**幸せの一番星**

**（夢・希望）**

**＜ステップ１＞** 障害のある人の「幸せの一番星（夢）」を皆で共有する。

**＜ステップ２＞** ゴールを設定し、夢が達成できた時に何を感じているかを話す。

**＜ステップ３＞** ゴールに向けて、今、どんな状態にあるのかを確認する。

**＜ステップ４＞** 夢の実現のためにどんな力を身につけたらよいか、を話し合う。

**＜ステップ５＞** 夢の実現のために必要な人が誰か？ を確認する。

**＜ステップ６＞** 近い将来、夢の実現に向けてどんなことをしているかを確認する。

**＜ステップ７＞** はじめの一歩として、参加メンバーがそれぞれの立場で何をするか

を表明する。

＜引用＞ 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所「ぱれっと（PALETTE）」作成チーム（2016年）

手厚い支援を必要としている子どものための情報パッケージ はれっと（PALETE）

～子どもが主体となる教育計画と実践をめざして～ 株式会社 ジアース教育新社（116ページ）

**付録３－２**

**支援の共有化のための記録（ケース会議などの記録）**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 氏名 | 所属機関 | 記入日 | 相談メンバー（ケース会議参加メンバー） | 次回開催予定 |
|  |  |  |  |  |

|  |
| --- |
| １．幸せの一番星（夢・希望） ◇ 利用者及びその家族の生活に対する意向（希望する生活） ◇ |
|  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ６．近い将来（半年後又は１年後の姿）  ◇ 長期目標 ◇ |  | ２．ゴール（３年後の姿）  ◇ 総合的な援助の方針 ◇ |
|  |  |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ３．今の姿（実態）  （ゴールの姿と照らし合わせて、  できること・まだ苦手なこと） | ４．必要な力  ◇ 解決すべき課題 ◇  （本人のニーズ） | ５．必要な人  （関係者）  ◇ 担当者など ◇ | ７．はじめの一歩  （まずはじめにすること）  ◇ 短期目標 ◇ |
|  |  |  |  |
| アピールポイント  （いいところ・得意なこと） |
|  |

|  |  |
| --- | --- |
| その他  の記録 |  |